

1. 市民参加手法検討調査 (株)沖縄計画機構

1.1 目的

石西礁湖の自然再生は、環境省だけでなく関係する行政機関、地域住民、地域で活動を行っている団体、サンゴ礁生態系に関し専門的知識を有する者等が共通の認識の下に、相互の役割分担と連携、協力による持続的な行動が必要となる。

本調査は、自然再生協議会の設立と市民参加による自然再生を実現するため、住民意識のアンケート調査、漁業者及びダイビング事業者に対するグループ・インタビュー調査、関係団体に対するヒアリングを実施し、各主体の意向を把握するとともに、市民を対象としたワークショップを開催し自然再生に対する市民の実践及び参加意欲を高揚させることを目的に実施する。

1.2 平成 17 年度業務結果 (途中経過)

(1) 石西礁湖の自然再生に対する市民の意向把握

1) 住民ワークショップ開催に向けた予備調査

05 年 9 月～10 月：竹富町、石垣市、八重山支庁、行政関係機関、ダイビング事業者、石垣市観光協会、八重山 J C、白保サンゴ村等へヒアリング調査を実施 (亜熱帯総研と協同で実施)

05 年 12 月：白保サンゴ村、西表エコツアー協会、石垣市青年団協議会へヒアリング

2) 小学生ワークショップ (平成 17 年度子どもサンゴ礁楽会)

05 年 11 月 2 日 午後 1:30～4:00 開催

小学生 3 年～6 年生：計 30 人参加 (3 小学校)

3 グループに分かれ、「海とサンゴと私たち」を基本テーマに、4 コマの紙芝居を作成し、発表会を実施した。

(2) 住民ワークショップの開催準備のための関係者ヒアリング

1) 白保での住民ワークショップ開催について

- ・ WWF が魚垣 (インカチ) の復元プロジェクトをベースにして地元住民と良い関係を築きつつある状況なので、WWF 白保サンゴ村の協力が不可欠である。
- ・ 新空港問題もやや一段落した観があり、このワークショップを住民相互で白保の海的环境保全について話し合いを持つ、いいきっかけにしたい。
- ・ 但し、自然再生事業の一環とはいえ、環境省が事業主体となると以前に途中で話し合いが終わっている海中公園指定の件を地元側へ整理して伝える必要がある。
- ・ 1 月～2 月中に公民館長、運営審議委員などへの接触を試み、開催に向けての了解を得る必要がある。(事前に住民ワークショップの企画案を作成し WWF と要調整)
「どういう目的のワークショップとするか?」、「どの範囲の住民に参加を呼びかけるか?」の十分な整理が必要 3 月中に 2 回のワークショップを開催予定

2) 石垣市青年団協議会をベースにした住民ワークショップ開催について

- ・ 川平、双葉、石垣、登野城、平徳、大浜、宮良、白保の 8 地域の青年団の協議会
- ・ 主な活動内容は伝統芸能の伝承と保存 (1 回 / 年発表会開催)、20～30 代男女
- ・ 毎年 2 月中旬から 3 月上旬にかけて研修会 (1 泊) を開催、今年度は研修内容にサンゴ礁保全に関する研修を盛り込む事も可能 (ワークショップも可能)
- ・ 米盛会長は大浜の青年団長を兼務なので、大浜地区単独での住民ワークショップ開催も可能
3 月 11～12 日の石垣市青年団協議会の定期研修会 (於：石垣少年自然の家) で、「八重山の海的环境保全 (仮称)」に関する講演会及び「海的环境と私たち (仮称)」と題したワークショップを開催予定 (具体的な内容を調整中)。
3 月中に大浜地区の青年会を対象とした住民ワークショップを開催したい (調整中)

3) 竹富町側での住民ワークショップ開催について

(西表エコツアー協会事務局へヒアリングを実施し、以下のコメントを得た)

- ・ 上原地区で複数の公民館合同での開催は可能性がある
- ・ ワorkshop形式による住民相互の意見交換の経験が少ないので期待したい
ダイビング事業者の参加を意図するなら 5 月中旬以降の開催が適切ではないか

(3) 子どもワークショップからの提案(その1)

参加した子どもたちの特性(伊野田・崎枝・吉原小学校)

都市部に比べ小規模校で、子どもと教師の距離が短く目配りが効く学習環境にある総合学習の時間を利用し、サンゴに関する基礎知識を得て、学校から歩いて行ける海岸で生き物観察を実施

海岸の漂着ごみの観察やごみ拾い、漂着物を利用したクラフトワーク等を経験
学校のプールでスノーケル訓練を実施後、実際に海でスノーケリングを体験
夏休みの宿題でも海的环境をテーマに自主研究に取り組んだ

海的环境に関する問題認識とその視点

総合学習の時間に得た知識、実際に海岸で観て触れた体験が問題認識に生きている紙芝居の主要テーマが各学年とも、海岸のごみや赤土流出、生活排水による汚染を一扫して、魚やサンゴなど生き物を殖やしたいとする方向性でほぼ一致した
問題解決には、みんなで一緒に行動を起こして取り組まなければ効果がないこと、また、取り組みの呼びかけに理解が得られなければ今以上に環境が悪化することをちゃんと示唆している

サンゴや魚、カニ等の生き物が擬人化し、環境浄化や環境保全を訴え、行動を起こして、自ら多様性に富む美しい海を得るストーリーの展開は子どもならではの感性があり大人に対するアピール力に富んでいると感じる

今後の普及啓発に関する提案

今回参加した子どもたちの意識やメッセージには、学校と環境省が連携し継続的(約6ヶ月間)に多様なカリキュラムを組んで実施した学習効果が表れていた。環境省に限らず行政サイドからの地域の学校や地域住民に対する継続的なアプローチは、中長期的に効果があるものと考えられる(大人への波及効果を含め)。実際に海で起こっている事象を観て触れて考える環境学習の効果は大きい。八重山地域の学校に限らず、修学旅行や夏休みを利用して都市部の子どもたちを招き交流的に環境学習の輪を広げること検討してはどうか。

子どもたちから得られる純粋な環境保全の視点を大人たちへ、メッセージとして効果的に伝える工夫をトライ・アンド・エラーで継続的に情報発信すべきではないか。(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、観光ポスター、ステッカー、Tシャツ等)



子どもサンゴ礁楽会(ワークショップ)に参加した伊野田・崎枝・吉原小学校の子どもたち

